



和解学の創成
Creation of the study of reconciliation

戦後補償運動の経験から学ぶ

—花房俊雄・花房恵美子著

『関釜裁判がめざしたもの』書評会—

1990年代、日本では侵略戦争と植民地支配の歴史の問い直しのなかで、戦後補償を求める運動が活発となりました。多くの裁判の場では謝罪や補償を求める訴えが退けられましたが、「関釜裁判」は一部勝訴の判決を勝ち取っています。

裁判支援に携わっていた花房俊雄・花房恵美子さんが、『関釜裁判がめざしたもの』（白澤社、2021年）を出版されました。同書には、被害当事者と支援者の関係、市民運動の展開のあり方などについて考えるための多くの材料が含まれています。このたび、花房さんをお招きして、下記の通り、書評会を開催します。

●日時：2021年5月29日（土）15:30～18:00（予定）

Zoom ウェビナーによるオンライン書評会として実施します（要・事前登録）。

Zoom の操作方法や接続不備については恐れ入りますが、Zoom のヘルプセンター (<https://support.zoom.us/hc/ja>) をご活用ください。

●評者

山本 晴太さん（弁護士）

玄 武岩さん（北海道大学教授）

許 光茂さん（元強制動員被害真相究明委員会）

【司会・コーディネーター】外村 大（東京大学大学院教授）

●参加費無料、ただし5月27日（木）までに**事前登録**が必要です。

下記のウェブフォーム、またはメールでの登録をお願いいたします。

開催日までに、事務局よりメールでウェビナーの URL をお知らせします。

・ウェブフォームでの事前参加登録→ ★[こちら](#)から

・お問い合わせ cks@iags-cks.c.u-tokyo.ac.jp



主催 科研費・新学術領域研究「市民による歴史問題の和解をめぐる活動とその可能性についての研究」（代表・外村大）

協力 東京大学グローバル地域研究機構韓国学研究センター